

2017 年 2 月 4 日

2016 年度実施（2017 年 4 月入学）

立命館大学大学院 経営管理研究科（専門職学位課程）

社会人入学試験 論述試験問題

＜試験にあたっての諸注意＞

- ・試験時間は、60 分です。
- ・持ち込み許可物件はありません。
- ・解答は別紙「解答用紙」に記入すること。

以下の2つの**問題 A・B**のうち1つを選択して解答しなさい。

なお、解答は所定の解答用紙を使用し、選択した問題記号と設問番号を記してから始めること。

問題 A

以下の記事を読み、設問に全て答えなさい。なお解答は所定の解答用紙を使用し、設問番号を記してから始めること。

トランプ氏の保護主義は本物だ

人に説くことを自分でも実践しているかどうかはともかく、大半の政治家は「保護主義」を差別用語として使っている。トランプ米大統領はそうではない。大統領就任演説で「(自国産業の) 保護こそが素晴らしい繁栄と強さにつながる」と述べ、長らく続いてきた米国の通商政策を劇的に変える方針を打ち出した。23日には北米自由貿易協定(NAFTA)の再交渉と、合意済みの環太平洋経済連携協定(TPP)からの離脱を発表し、近年の米国の超党派による通商政策からの決別を示した。

トランプ氏の重商主義への執着を示すこの表明が、どのような結果につながるのかはまだわからない。だが、世界経済をゼロサムで捉える見方に退き、貿易赤字を相手国の不正行為の明白な証拠と見なして保護主義に頼るのは、およそ時代に逆行する。

■NAFTAを大幅変更か

トランプ氏が再交渉で何を達成しうるのか、現時点でははっきりしていない。確かに、協定に打撃を与えても崩壊はさせない形で、米国はNAFTAにいくつか大きな変更を加えられる。カナダやメキシコが中国など域外で製造された部品を使って生産した製品を米国に輸出しにくくなるよう、トランプ氏はNAFTAの「原産地規則」を変えることも可能かもしれない。公共事業などで米国製品や資材の優先使用を義務づけるバイアメリカン(米国製品優先購入)条項に縛りをかける調達規定を変更、あるいは撤廃することもできるだろう。

しかし、トランプ氏がメキシコからの輸入品に35%の関税をかけるというような過激な行動を取るのは、それよりもはるかに難しそうだ。たとえトランプ氏がNAFTAを完全に破棄し、米国が世界貿易機関(WTO)の全加盟国に供与する「最恵国待遇」に立ち返ったとしても、関税は総じて35%を大きく下回るからだ。

こうした理由から、トランプ氏の選択肢はますます破壊的になっていく。緊急関税の発動に始まり、WTOがそのような措置を違法とする裁定を下せばWTOを無

視する。そしてWTOから脱退する。そうすると、この70年に及ぶ世界の貿易政策の基本構造が瓦解してしまう。

そうした行動はどの国の利益にもならない。むしろ米国自身が最もひどい目に遭う。供給網が寸断されてコストが跳ね上がり、技術革新が遅れる。消費者にしてみればモノの値段が上がり、農業からサービス業まで米国自身の輸出が打撃を受ける。

(2017年1月25日付 英フィナンシャル・タイムズ紙)

〔設問1〕 トランプ大統領はどのような政策を取ろうとしているかをまとめた上で自分の意見を述べなさい。

〔設問2〕 トランプ大統領の政策により、どの日本企業にとってどのようなビジネスチャンスが生まれると考えられるか。具体的に一つ挙げその理由を述べなさい。

〔設問3〕 トランプ大統領の政策により、どの日本企業にとってダメージが大きいと考えられるか。具体的に一つ挙げその理由を述べなさい。

問題 B

以下の文章を読んで、設問に全て答えなさい。なお解答は所定の解答用紙を使用し、設問番号を記してから始めること。

最近、毎日のように人工知能や AI という言葉を見聞きするようになった。囲碁の世界でも、人工知能「AlphaGo」が世界最強のイ・セドル九段に勝ったことは記憶に新しいが、それ以降も AlphaGo は自身との対戦を膨大な回数繰返し、人間では到底及びもつかない強さに到達しているという。

過去の人工知能は、膨大な知識やルールなどを人間が全て教える必要があり、現実社会で通用するレベルにはなかなか近づけなかった。だが、最近の人工知能は「機械学習」、つまりコンピュータが勝手にルールを学んでくれる技術が軸となっている。近年、機械学習の中でも「ディープラーニング」が発達し、大量のデータから自分で物事を分類するルール（特徴量と言われる）を見つけ出すことが可能になった。その結果、人工知能の能力が飛躍的に進化し、実用レベル、適用の幅、可能性が大きく広がった。

また、大量データをネットワークで集めて処理する技術、ネットワーク自体の高速化、IoT (Internet of Things)、センサー、大量の画像を高速処理できる GPU (Graphics Processing Unit) の進化など、周辺の IT の進化が、人工知能の発展、実用化を後押ししている。

しかし、上記のような AI は、コンピュータプログラムなので、得意・不得意がある。AI が得意なのは、静的データと閉じた空間である。

静的データとは、全体的な傾向が固定しているようなデータを意味する。静止画像、ゲーム、試験問題などがこれに当たる。AlphaGo などのゲームは、探索空間こそ非常に広いとしても、ルールで決められている空間であるため、コンピュータで処理しやすい。

もう 1 つは閉じた空間である。人間は、「あのドアから次に誰が入ってくるのかを 100% は予測できない」という開放系の世界にいる。開放系の世界にあっては初めての出来事が存在するものだが、AI はそういう世界は苦手である。予測できないことが起こった時に対処するのが不得意である。

AI が苦手とするのは、動画の処理や、一般的な問題解決などである。また、「物を持って離せば下に落ちる」といった常識的な推論や、物理的な世界も不得意である。ロボットはセンサー+AI+アクチュエーターであり、それなりに発達してきたものの、まだまだ十分ではない。例えば、棚から物を出して箱に入れるという作業を複数チームが競う「アマゾンピッキングチャレンジ」という大会がある。この作業自体は人間なら子供でもできるが、ロボットでは「物をどう認識するか」「どう掴めば傷付けずに済むか」という戦略の計算に長い時間がかかり、さらにどのチームも完全には成功しない。

これまで訓練を受けた人間が対応せざるを得なかった様々な場において人工知能の活用が進み始めている。AI は汎用技術であるため、様々な分野での活用が予想され、活用が進

んだ領域では従来の人間の働き方を変えることになる。

〔設問1〕 AI の進展によりどのような業種・職種がダメージを受けると思うか。なぜか。

〔設問2〕 AI を上手く活用することで伸びそうな日本企業はどこか。なぜか。

〔設問3〕 AI の進展により貴殿の業種にどのような影響があると思うか。具体的に述べよ。